

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書／事後評価書

団体名	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団	
施設名	調布市グリーンホール	
内定額	2,826	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数			
年間事業本数（※1）	主催事業	18	23
	公演事業	6	6
	（内、本助成対象事業本数）		
	人材養成事業	1	2
	（内、本助成対象事業本数）		2
	普及啓発事業	11	15
	（内、本助成対象事業本数）		4
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	616	616
	ホール名：大ホール 座席数：1301	308	308
	ホール名：小ホール 座席数：300	308	308
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	20,396	26,494
	公演事業	15,226	19,003
	人材養成事業	830	1,053
	普及啓発事業	4,340	6,438
	その他 内容： 記入してください		
	貸館事業入場者・参加者数	146,000	150,000
	その他 内容： 記入してください		
	計	166,396	176,494
施設の利用率(%)		81.0%	84.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合(※4)	その他
令和5年度	主催公演(※1)	6	60	15,226	80.0%	0	5	0	0	0	1	0
	共催・提携公演(※2)	15	23	18,451	80.0%	1	7	1	3	4	0	0
	貸館公演(※3)	230	230	146,000	70.0%	2	31	5	3	0	0	190
	計	251	313	179,677								
令和6年度	主催公演(※1)	6	65	19,003	80.0%	0	4	0	1	0	1	0
	共催・提携公演(※2)	14	17	15,000	80.0%	0	8	1	2	3	0	1
	貸館公演(※3)	231	231	150,000	65.0%	3	30	7	6	0	0	186
	計	251	313	184,003								

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。
※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数	入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点						
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)						

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業	今後の自身の音楽活動にとって新たな発見がありましたか？ 「沢山の発見があった」「次につながる発見が一つでもあった」「これまで経験している内容だった」 対象:各事業の参加者	「沢山の発見があった」「次につながる発見が一つでもあった」の回答が90%以上	実施結果 100% 【回答数】 参加者数 オーケストラアカデミー84名、地域とつながる7名 ①「沢山の発見があった」オーケストラアカデミー32名、地域とつながる6名、計38 ②「次につながる発見が一つでもあった」オーケストラアカデミー5、地域とつながる0、計5 上記以外の回答はなし 回答率 オーケストラアカデミー44%、地域とつながる85%	本年度、調布市グリーンホールでは、2つの人材養成事業を実施し、参加者の満足度は高かった(次につながる発見がある100%)。1つ目は、調布国際音楽祭のオーケストラアカデミーである。本事業は、国際的な視野を持つ次世代のオーケストラ奏者の育成を目的とし実施するもので、国内外から過去最多の130名(海外10名)の応募があり、審査を通過した84名が参加した。世界的指揮者・鈴木雅明氏を中心とした一流の講師陣の指導のもと、4日間のリハーサルやキャリア支援プログラムを実施した。幻想交響曲をメインプログラムとした本公演では、セルバンやオフィクレイドなどの古楽器も使用するなど質の高い成果が披露され、来場者満足度93.5%(アンケート回収率32%)となった。また、選抜メンバー10名は地域のユニークベニューで演奏を行い、クラシック音楽愛好家以外のニーズを体感できる機会を創出した。このオーケストラアカデミーの過去の参加者が国内主要コンクールで入賞するなど、芸術水準の高さとそれによる事業の波及力が明らかになりつつあり、我が国のクラシック音楽分野を牽引する人材育成事業への発展が期待される。2つ目は、地域課題の解決に貢献できるアーティストの養成事業である。本事業は、共生社会の実現と特別支援教育の充実という地域課題に向き合い、調布市立八雲台小学校の協力のもと実施された。箕ロー美氏、おとみつくを講師として迎え、アウトリーチ経験を持つ7名の若手演奏家が5回のワークショップと2回の企画演習に取組んだ。ワークショップでは特別支援学級の児童とともに創作的な表現活動を展開した。楽器演奏や身体表現など多様なアプローチを通じて、子どもたちの主体性や変化を引き出し、学校関係者からも高い評価を得た。本事業は、特に多摩地域において音楽を通じたインクルーシブな教育支援のあり方を模索する先進的事例であり、演奏家自身の創造性とコミュニケーション能力の向上にも寄与した。	◇申請2事業ともに、参加者すべてが「発見」があったと回答しており、目標が高い水準において達成されたと認められる。 ◇人-1「調布国際音楽祭オーケストラアカデミー」事業は、鈴木雅明ほかによる指導のもと、将来有望な若手演奏家が鍛錬の成果を見せ、来場者へのアンケート結果にも高い満足度が示された。 ◇選抜メンバーによる地域の各所における「サテライトコンサート」は、多様な演奏場所における演奏機会の提供が若手演奏家にとってよい体験になったことが伺い知れる。 ◇今後とも「調布国際音楽祭オーケストラアカデミー」事業から多くの優秀な演奏家が輩出されるよう期待したい。 ◇人-2「地域とつながるプロジェクト 地域とつながるアーティスト養成プログラム」は、要望時の予定(座学3回、試演・フィードバック1回、アウトリーチ1回)から、アウトリーチ見学1回、アウトリーチ4回、企画演習2回と大きく変更されて実施された。また対象者も、演奏家コース5人、一般コース15人の予定から若手演奏家7名へと変更があった。新規事業であり、臨機応変に対応することも大事であるが、計画立案時に担当講師との練り上げが十分であったか、検証することが望ましい。	
普及啓発事業	このような文化芸術に今後も触れていきたいか 「触れていきたい」、「どちらかというと触れていきたい」、「どちらかというと触れたくない」、「関心がない」 対象:事業に参加した中学生以下の参加者	「触れていきたい」、「どちらかというと触れていきたい」の合計が90%以上 参考指標:令和3年度子ども向け公演事業「またこのような催し物に来たいか」96.2%	実施結果 92%	調布市グリーンホールでは、共生社会の充実と、子どもの成長段階に応じた鑑賞体験の創出を目的に、4つの普及啓発事業(オーブンデー、クリスマスコンサート、音楽アウトリーチ、インリーチ)を実施し、92%の参加者が今後も文化芸術に触れていきたいという回答を得た。オーブンデーでは、社会福祉協議会と連携した周知を行い、介護施設の入所者や障害のある子どもなど、文化芸術にアクセスしにくい層の来場につながった。市内メディアにも取り上げられ、「開かれたホール」としてのイメージ向上と新たな鑑賞者の開拓につながった。クリスマスコンサートでは、市内小中学生向けの先行販売を実施し、U25の販売数は158枚と当ホールで実施するクラシック公演の平均の約5倍を記録した。ピアニスト角野隼斗とばんだウインドオーケストラによるステージは、クラシックとポップカルチャーを融合した革新的な内容で、若年層に強いインパクトを与えた。音楽アウトリーチにおいても、ばんだウインドのメンバーが市内の小中学校を訪問した。小学校では、子どもたちの主体性を重視した参加型プログラムを展開し、学校によっては特別支援学級の児童も参加した。中学校では部活動の地域移行を見据え、吹奏楽部を訪問した。楽器ごとに専門性の高い指導が必要とされるなか、ばんだウインドの演奏指導は教育現場から高い評価を得た。インリーチでは、都立特別支援学校と連携し、知的障害を持つ児童がホールで音楽を体験する機会を創出した。子どもたちの自発的な表現を引き出すことを目的に前年同様ピアニスト中川賢一による演奏に合わせ、児童が自由に身体を動かして表現するワークショップとして実施し、教員からも「子どもがリラックスして参加できるようになった」との声が寄せられた。	◇調布市グリーンホールの強みである音楽を用いて、力を入れて取り組んでいる子供を対象にした意欲的な事業が展開された。全体に参加者の満足度も高く、子供たちの音楽への関心や親しみを高めることができたと認められる。 ◇全般的に社会包摂やバリアフリーへの目配りも行き届いており、特に普-4「劇場から地域とつながるプロジェクト 特別支援学校へのインリーチ」では、受入れ側との連携もよく、成果をあげることができた。 ◇普-3「グリーンホールがやってくる！プロジェクト 調布市内小・中学校へのアウトリーチ」も、実施校との調整が綿密に進められた。今後も各学校の事情に応じてきめ細かい対応を求めたい。 ◇普-1、および普-2の「ようこそ、コンサートホールへ！プロジェクト」も、ともに子供たちに音楽の楽しさを伝える好企画であった。 ◇普-1「グリーンホールオーブンデー」のバックステージツアーは、せんがわ劇場DELの俳優を起用して楽しい趣向に作られており、照明器具の操作まで体験させるなど、工夫が見られた。但し、「管楽器コンサート」は無料にもかかわらず入場者が少なく、イベント全体に祝祭感や賑わいが加わると、さらに好ましい事業になることと思われた。地域の各団体との連携の可能性を探ることを検討されたい。	

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・オーケストラアカデミーの方針の一つとして、参加者がいかに意欲的に参加できるかという視点を重視し、挑戦できる環境づくりに務めている。今回の演目では、チューバパートを古楽器奏者の橋本氏に依頼し、セルバンもしくはオフィクレイドでの応募を可能とした。その結果、セルバンに挑戦した若手音楽家の応募があり、本公演では、橋本氏のオフィクレイドを演奏、受講生のうち一人がチューバ、旋律部分を中心にもう一人の受講生がセルバンで演奏する形を取った。パッパ・コレギウム・ジャパンが企画に関わっている音楽祭ならではの創造性豊かなオーケストラとなった。
・アーティスト養成プログラムの中で実施した八雲台小学校でのアウトリーチでは、おとみつくが主体、受講生がサポートに入ることで実践的な経験値を積んでいく形をとった。初回は、可能だったら演奏で参加してみたいという漠然とした指示にとどめていたが、受講生はその楽曲に応じて自分の楽器で即興的に参加する創意工夫を見せ、児童との交流にも積極的であった。こうした姿勢から毎回のアイスブレイクを受講生に担当してもらうという発想につながり、企画の充実度が大幅に向上した。
・オーブンデーでは、当初は別の団体に演奏を依頼していたが、諸事情により、過去のオーケストラアカデミー参加者に変更した。企画を依頼した演奏者は、それぞれ桐朋学園大学と東京音楽大学のオーケストラアカデミーに参加しながら在京オーケストラのエキストラとして活躍しているもので、アウトリーチ等の経験がある奏者を選抜した。対話を重ねながらプログラムを構成し、5重奏から10重奏への編成拡大といった若手音楽家ならではの意欲的な提案が随所に見られた。また、UDトークへの対応も行われ、若手音楽家にとっては、自らの創造性を発揮しつつ共生社会の充実に求められる視点も経験できる有意義な機会となった。
・ばんだウインドオーケストラ公演では、40歳以下の鑑賞者の獲得、2月にシネマフェスティバルの実施といった地域の状況を踏まえたプログラム作成を依頼した。団体の創造性が発揮されることを目的に特定の曲目の指定は行わなかったが、プラスのオリジナル曲を発信したいというばんだウインドの意向からエボニー協奏曲など珍しい作品も並ぶ意欲的なプログラムとなった。また、メインプログラムの一つであるラプソディ・イン・ブルーには、ばんだウインドの創設時のメンバーである打楽器奏者石若駿が参加し、角野隼斗と即興的なコラボレーションを見せるなど、現代的、かつ多彩なコンサートへと発展し、来場者の満足度は極めて高かった。
・音楽アウトリーチでは、児童の主体性を重視した取り組みを行っている。今回のプログラムでは、質疑応答等での問いかけや校歌の演奏なども取り入れられたが、出演者の発案によってホースでモーツァルトのホルン協奏曲を演奏するという取組が実施された。ホルンの管は実際にはどれくらい長いなどの説明はこれまでも入っていたことがあるが、実際に一一直線に伸びたホースを演奏する姿に児童の関心は大変高まった。
・特別支援学校のインリーチでは、前年度は舞台上上がってダンスを行うという取組を実施した。しかし、今年度は児童の安全面を考慮し、舞台上ではなく客席に留まってダンスを行う形とした。踊れるスペースが限られることが懸念されたが、助手の人数を増やし、客席全体を活用する工夫により、児童たちは各所で自由に踊り始めた。学校側は来場することも難しいホールの中で、これだけ広々と使えることが貴重な体験になったという声が上がった。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
フェスティバル・オーケストラにおける外国人の参加者数	5人 参考値:「令和5年度の外国人参加者の人数」2人	外国人の参加者 7名	調布市グリーンホールでは、世界的な協定団体や音楽大学が所在するという文化資源を活かし、文化芸術を中心とした拠点機能を発揮する事業として、調布国際音楽祭を実施している。本年度は国際交流の一層の充実を図るべく、世界的ヴァイオリニスト、イザベル・ファウストを招聘し、NHK交響楽団との共演を実現するなど高い芸術性は国内外からの注目を集めている。助成対象事業であるオーケストラアカデミーでは、シンガポールのヨン・シウ・トウ音楽院と連携し、海外から10名の応募があり、うち7名が選抜されて参加した。各参加者は異なる楽器を専攻しており、各セッションで日本人受講生との演奏・交流が自然に生まれた。また、そのうち3名は市内の家庭にホームステイし、ホームステイ先の家族と日常を共にすることで地域の文化に触れる貴重な体験を得た。国際交流の促進を目的に今年度から英語版の募集要項の作成や、通訳付きのディスカッションタイムを実施し、活発な人的交流が生まれるきっかけとなった。音楽祭では、全ての公演で英語版ホームページを整備し、在住・訪日外国人への情報発信を強化している。演奏家・市民・観客が国際的な文化交流の場として、地域内外の連携深化が今後期待される。	◇調布市グリーンホールは、調布国際音楽祭という国際的な事業を展開しているホールであり、施設全体が常に国際性を意識して活動していることと思われる。申請事業のうち、人-1「調布国際音楽祭オーケストラアカデミー」もその国際音楽祭の一環であり、目標値を上回る外国人の参加を得て実施された。 ◇外国人受講生の中には、市内の家庭でホームステイしていた受講生もあったようであるが、こういった協力者の存在も貴重である。単に来日してアカデミーを受講するだけでなく、交流の場を作ることも大きな成果ととらえた	

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・オーケストラアカデミーでは、アカデミー参加者の国際交流を目的に当該年度より英語の要綱、課題曲リストを作成し、SNSも英語で募集の投稿を行った。その結果、ヨン・シウ・トウ音楽院の学生の関心が飛躍的に高まり、早い段階でかなりの反響があったため、選抜を目的に、日本人の参加者と同じ審査過程を踏んだ。結果前年2名の応募に対し、10名の応募、7名が合格し、オーケストラの質の向上にもつながった。 ・地域の国際交流の観点では、コロナ禍以前に一度実施したホームステイの取組を財団内に組織化された国際交流センターと連携しながら実施した。ヨン・シウ・トウ音楽院からの参加者には20歳以下の学生も多く、海外での生活に不安であったためホストファミリーの存在により、安心してリハーサルに臨むことができた。
--

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意) GH施設利用者(入場者数) 前年比1万人増(令和5年度146,892人→令和6年度157,000人※)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
アウトリーチ、インリーチで連携をとった市内の教育機関の数	10校 ※参考値: 令和5年度8校	実績(値) 10校 内訳 小学校7校 小学校特別支援学級1校 中学校2校	調布市グリーンホールでは、人口のゆるやかな増加や子育て世代の流入といった地域の社会動向を踏まえ、誰もが文化芸術に触れられる社会の実現と、子どもの成長段階に応じた鑑賞体験の創出を目的に、地域資源を生かした拠点機能の強化に取り組んでいる。今年度は、調布国際音楽祭を通じてつながりを持ったアーティスト(上野耕平率いるばんだウインドオーケストラ／普及-02、03、過去のオーケストラアカデミー参加者／普及-01)や桐朋学園大学の卒業生等(おとみつく桜井しおり／人材-02、中川賢一／普及-04、ばんだウインド佐藤采香／普及-02、03)との協働によるプログラムを実施した。 アウトリーチ事業や障害者対応においては、地域の関連機関との連携を重視し、市内小中学校・都立特別支援学校の協力による体験の創出や社会福祉協会との連携による鑑賞サポート・情報周知などを行った。今回のアウトリーチでは、新たに4校(小学校は3校、中学校は1校)での実施が実現した。過去の実施の際のヒアリングを通じてニーズが高かった管楽器アンサンブルで、児童・生徒の興味関心に即したプログラムとなった。2021年から継続している小学校アウトリーチは、今回の新規校を加えると市内20校中13校での実施となり、地域に根差した活動として定着しつつある。実施後のアンケートでは、こどもたちの76.7%がコンサートに「行かない」もしくは「めったに行かない」と回答しており、こどもの均一な鑑賞体験の創出のために地域の教育機関との連携の発展が期待される。 子どもたちを主対象とした体験事業も多角的に展開し、アウトリーチのほか、オーケストラアカデミー公演での18歳以下の招待事業(ジュニア招待)、未就学児から様々な音楽体験を楽しめるオープンデー、若年層をターゲットにしたクリスマスコンサートなど、成長に応じた多様な文化体験の機会を創出した。ジュニア招待には56名が参加、オープンデーの特にティンパニ体験には約100人の親子が参加し、保護者からも「また企画してほしい」といった声が寄せられた。 市民によるボランティア参加は、調布国際音楽祭では78名、オープンデー等、事業毎でも常時10名前後の市民が参加しており、文化芸術を市民と共に作り上げる土壤がグリーンホールの強みになっている。	◇調布市グリーンホールは、調布国際音楽祭のような大型の事業をととして地域の音楽文化の中心的存在となっている。一方、申請事業の普及啓発事業に見られるような、地域の、特に子供たちへのアプローチも積極的に展開しており、地域拠点としての存在感を示している。 ◇子育て世代に照準を合わせた事業は、地域におけるニーズを反映したものであると思われるが、地域のニーズについては今後も常に情報収集していくことが望まれるところと思われる。高齢者、多忙な現役世代、在住外国人などの状況も注視しつつ、ホールとして提供すべきサービスを考えていってくれるよう望みたい。 ◇調布市グリーンホールの近隣には、桐朋学園大学という有数の音楽大学が存在している。ホールとして高等教育機関という文化資源との有機的な連携を深めることも検討していったほしいところである。	

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・当該アカデミーでは、地域貢献の視点を持つオーケストラ奏者に成長してほしいという観点とアカデミーの認知度を高める目的から、地域のユニークベニューで行われるサテライトコンサートには成績優秀者が出演している。今回、新たなサテライトコンサート場所として、調布駅前にある調布PARCOとトリエ京王のスターバックスコーヒーの店舗が参加した。スターバックスコーヒーは、店舗スタッフのホスピタリティや教育水準の高さに特色を持つ企業だが、その利点を活かした取組として、演奏者とスターバックスコーヒーの各店長とで事前MTを行い、クラシック音楽を知らない人がどのようにクラシック音楽を感じるかという話し合いを設けた。当該のコンサートに出演する演奏者からも自分の友人たちの反応などを引き合いにだし、深い議論が行われ、当日は鍵盤ハーモニカを用いるなどの工夫を講じたプログラムが実施された。このサテライトコンサートには乳幼児を持つ親子さんなど普段コンサートには来場しづらい観客層も参加しており、企業連携による若手音楽家の成長の機会と地域のニーズがマッチした有効な事例となった。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
障害者の招待事業の参加者数及びハンディ割を使用した来場者数の合計	130人 参考値: 令和5年度115人	93名(助成対象外事業を含む)	調布市グリーンホールでは、クラシック音楽を柱に据えながらも、若年層の趣向や時代の多様性を踏まえたプログラム展開を意識し、幅広い観客に訴求する事業を実施している。助成対象事業では、吹奏楽とポップカルチャーを融合したクリスマスコンサートを実施し、U25層のチケット販売枚数は150枚に達するなど新たな若年層の獲得に成功した。 ホールに来場しづらい子どもや障害者を対象に、学校と連携したアウトリーチ、インリーチも継続し、子どもたちの等しい文化体験を創出した。経済的事情に関わらずホールで文化芸術に触れる機会として、無料で参加可能なオープンデーも今年度は実施した。来場者目標には届かなかったが、市内メディアで取り上げられたことで、今後の継続的な展開への基盤づくりとなった。 出演者には、若手から重鎮クラスの演奏家(例:堀米ゆず子)まで多世代が関わり、世代や関心の異なる層へのアプローチにつながっている。 アクセシビリティの面では、障害のある来場者に向けた取組を強化した。やさしい日本語を取り入れた影アナウンスを試し、視認性の高いブラカードの作成・使用を行ったほか、受付に筆談対応用の機器を設置するなど、コミュニケーション支援にも配慮する取組を実施している。また、車いすスペース、バリアフリースイレ、エレベーターも完備されており、施設面でのバリアフリー対応も整備されている。 指標では、特別支援学校の招待事業の参加者が減少したため(前年度は3～6年生で今年度は4、6年生)、実績値は未達となっているが、障害者手帳を提示すると受けれるハンディ割の利用者数は前年より増加しており、障害者への文化芸術体験に関わる支援は着実に浸透してきている。当ホールでは、令和7年度より障害者割引を500円から1,000円に引き上げ、介助者1名にも同様の割引を適用する改定を行う。また、全公演での鑑賞サポート導入を目標に、視覚・知的障害のある来場者への案内手段の拡充や、多言語情報発信、補聴支援機器の積極的な活用促進にも取り組む予定であり、あらゆる人々が実演芸術に触れられる環境づくりを推進するうえで本年度は重要な基盤づくりとなった。	◇調布市グリーンホールは、事業全体において、バリアフリー対応を充実させている。ホールにおける多くの事業において、手話通訳、UDトーク、点字プログラム、FM集団補聴システム等の支援を用意しており、障害者への合理的配慮に対応すべく取り組んでいる。 ◇また、福祉関係団体や特別支援学校などとも連携態勢を築いており、音楽のアウトリーチやインリーチにも意欲的に取り組んでいる。 ◇今後も、より幅広い層の人々にホールに足を運んでもらえるよう、心がけていってもらえるよう望みたい。	

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・障害の有無に関わらず文化芸術に触れられる機会の創出を目的にオープンデーでは、UDトークと手話通訳を導入した。UDトークは、過去に公演で取り入れたことはあったが、令和6年度に改正された障害者差別解消法を念頭にシアターアクセシビリティよりUDトークの操作方法などを財団で学ぶ機会にしてはどうかという提案があった。この提案を受け、事前に研修を行い、当日の操作もシアターアクセシビリティの協力のもと職員も参加し、バリアフリーに対する職員の意識が向上する機会となった。 ・全公演でバリアフリーの取組を実施することを目指す当ホールの方針に伴い、ばんだウインドオーケストラによるクリスマスコンサートでも手話通訳とピクシダストテクノロジーズ社による音を振動と色で表現する機器「SOUNDHUG」を導入した。奏者の協力が不可欠だが、当日の進行を担った上野耕平氏は大変協力的で、かつSOUNDHUGには角野隼斗氏ら演奏者、来場した健常者も関心を持ち、仕組みなどについて様々な質問などが寄せられた。公演事業でのバリアフリーの取り組みは既存の顧客減少のリスクを伴うが、関心が一層高まった機会となった。
--

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点
協定団体であるパッハ・コレギウム・ジャパン及び桐朋学園大学と協働し、国際的水準の文化芸術を創造・発信することで劇場に集う人々の生きがいとなることを目指していることから、芸術に日常的に触れ合える機会の創出及びグリーンホールへの愛着度を図る指標としてグリーンホールに定期的に来場する人を測定します。

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
助成対象事業及び、協定事業における来場頻度 「熱心に通っている[参考:年5回以上]」、「よく来る[年3～4回程度]」、「ときどき来る[年1～2回程度]」、「ほとんど初めて／久しぶり[過去3年間で1～2回程度]、今回がはじめて	「よく来る、熱心に通っている」 30％以上 参考値: 令和5年度29%	30.9%	調布市グリーンホールでは、市民を中心に文化芸術がどれだけ定着しているかという点で、来場頻度を注視している。特に、当ホールでは、パッハ・コレギウム・ジャパンおよび桐朋学園大学との協定を活用した国際的水準の文化芸術を市民に届ける取組みを継続的に行っており、その成果を数的に可視化することで、劇場の文化芸術拠点としての役割と影響力を明らかにしている。 今年度は、助成対象事業および協定事業の全8公演において、アンケート回収データから来場頻度を集計した。具体的には、年3～4回程度来場する「よく来る」層と、年5回以上来場する「熱心に通っている」層を合計し、全体の30％以上を目標値として設定している。結果として、今年度の8公演平均は30.9％となり、目標を達成した。 中でも、協定団体との公演等(BCJ、桐朋)はいずれも30％を超え、BCJは最大41.0％、桐朋も最大38.4％と、劇場への高い愛着度が確認された。とりわけBCJによる公開リハーサルでは、来場者の過半数が年3回以上通っているという結果が得られており、国際水準の実演芸術に継続的に触れられる環境を、劇場が安定的に提供できていることを表している。また、こうした高頻度来場者の存在は、劇場を定期的に訪れることで生活のリズムや生きがいを形成する市民の姿を映し出しており、地域に根ざした芸術体験の蓄積を示すものでもある。 一方で、助成対象事業においては、定着ではなく新たな層の開拓が成果として現れている。たとえば、U25向けに構成されたクリスマスコンサートでは、アンケート回答者のうち「初めて来場」の回答が45.9％を占め、非常に高い数値となった。同様に、オープンデーにおいても新規率は28.7％となり、年齢的な趣向、経済的な事情やアクセシビリティといった理由によりこれまでホールに来場しなかった層が初めて足を運んだことが伺える。これらの事業は、新しい観客層の獲得を目的として企画されており、劇場と市民の新たな接点をつくる重要な役割を果たしている。 調布市グリーンホールでは、協定団体との信頼関係に基づいた定着型の事業と、助成金を獲得した新規層を獲得する挑戦型の事業を適切に使い分けることで、多様な市民に文化芸術の入り口を開きつつ、継続的な鑑賞機会を通じてホールとの関係性を深めている。来場頻度の定量的分析は、劇場の社会的機能と文化的蓄積を可視化するツールとして今後も継続し、より精度の高い評価と改善につなげていく予定である。	◇調布市グリーンホールは、固定的な支持層を獲得していることが強みであることが、アンケート調査結果から理解できる。一方、新たな観客を獲得していくことも同時に大事なことであり、この両者のバランスには常に注視し続けていってもらいたいところである。	

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	事業価値を適切に広報し、支援したいという層の獲得に努めている	音楽祭を中心に年間100万円の寄附の獲得 (令和5年度実績785,000円)	785,000円	目標値には届かなかったが、協賛金は500万円近くまで獲得しており、個人、企業との連携しながら文化芸術を支える基盤は定着しつつある。	協賛金等の外部資金の獲得に尽力されていることが認められる。	
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	市内全戸配布の財団報を中心に紙媒体は充実しており、WEB上での広報展開の充実を計画している。	来場者が当財団のホームページ・SNSで公演情報を見たという割合を10%に増やす 令和5年度実績7.6%	10.90%	音楽祭では、SNSに注力し、専門人材に業務委託している。そのことが大幅な上昇につながっており、劇場全体の事業にも活用していきたい。	SNSが効果的に活用されていると認められる。	
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	東京文化会館、東京芸術劇場を中心に連携をとっており、多摩地域全域への発信が課題となっている。	年2回以上施設見学や勉強会を実施し、情報共有を図る。	年2回以上施設見学や勉強会のほか、総合支援館のミュージア川崎に職員1名が研修した。	他館との情報交換を積極的に行っている。	他館との連携が継続的に行われている。近隣の施設との情報交換なども有意義ではないかと考える。	
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	定期的な会議を設けているほか、出向者による人事交流を継続している。	継続を目標	継続している	定例会議のほか、出向者を活用し、市と密接に意見交換を行っている。	設置者との意思疎通が図られていると思われる。	
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	音楽祭にはプロデューサー、監修者を設置。それ以外の事業にはアドバイザーを設置。	将来的には館全体の芸術監督設置を検討	音楽祭では、プロデューサーと監修者を配置、それ以外の事業は桐朋学園大学の教授をアドバイザーに配置している	新たな地域課題を解決に貢献できる団体との協力関係の構築を検討しつつ、芸術監督の設置も検討している。	アーティスティックな牽引力に加えて、ホールビジョンや地域性についての十分な理解や運営面での柔軟性なども備えた芸術監督が得られるようであれば、貴館の発展につながる事が期待できると考える。	
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	公文協の研修受講など必要な育成を行った上で、適性のある者を配置している。	継続を目標	今年度も公文協の研修を4名受講するなど、育成を行いながら適正のあるものを配置している	研修等にも積極的に参加しており、適切と考える	調布市文化・コミュニティ振興財団理事長、調布市グリーンホール館長におかれては、ホール運営の統括的な責任者として、引続き広い視野と芸術文化への深い理解をもって運営にあたっていただきたい。	
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	職員採用時に舞台芸術の専門性を重視すると共に、必要な研修を行い、育成に努めている。	継続を目標	舞台芸術の専門性を重んじた人事配置を継続している	アートマネジメントの能力が多岐にわたるため、アートマネジメントの能力とはという視点を常にアップデートしていくことは必要だが、概ね適切である。	スタッフを各種の研修に参加させて、アートマネジャーとしての専門性の確保に努めていると思われる。	
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	音楽祭にはプロデューサー、監修者を設置。それ以外の事業にはアドバイザーを設置。	継続を目標	継続している	専門性を活用した役割分担が出来ており、適切である。	外部専門人材を積極的に活用しており、それぞれの担当領域も整理されていると思われる。財団内の業務分担も明確になっている。	
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	令和6年度は新卒職員2名を採用し、若年層の雇用並びに育成に取り組んでいる。	継続を目標	継続している	若年層の職員の獲得を積極的に行っており、適切である。	年齢・性別などのバランスはとれている。	
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	女性管理職登用を積極的に行い、37.5%となっている。	継続を目標	継続している	女性管理職比率も高く、適切である。	女性管理職37.5%は財団全体での比率であろうか。	この指標は財団全体の指標
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	整備を行い、「えるぼし認定」に認定されている。	継続を目標	継続している	ワークライフバランスの必要性を提唱しており、適切である。	ワークライフ・バランスへの対応が進んでいると認められる。	
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	関連規程を策定し、定期的に研修を行い、セキュリティ確保に努めている	継続を目標	継続している	適切に継続している。	セキュリティ対策は引続き万全を期していただきたい。	
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	関連規程を策定し、定期的に研修を行い、ハラスメント防止に努めている	継続を目標	今年度はハラスメント研修を財団全体で実施した。また、事業におけるガイドラインも策定した。	適時、研修を実施し、適切に努めている。	ハラスメント防止の取り組みが行われていると認められる。	
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	契約事務規程に基づき、適正な契約を行っている。	継続を目標	継続している	適切である。	適正な契約が締結されていると思われる。	

4. 総評

・ 団体の自己評価

調布市グリーンホールは、「生きる力の養成」「未来への継承」「豊かな心づくり」をミッションに掲げるとともに、「心が潤う劇場」「創造が生まれる劇場」「共感力が育つ劇場」という3つのビジョンを指針に、多様な事業を展開している。本年度は、これらの理念に基づき、芸術性と社会性の両面を重視した取り組みを進め、「自分の価値を見つけ、お互いに認め合える社会」の実現に向けた基盤づくりとなった。

人材養成事業の一つとして実施された「調布国際音楽祭オーケストラアカデミー」は、国際的な水準での若手音楽家の育成を目的とし、国内外から過去最多となる130名の応募を集めた。その中から選抜された84名の受講生は、世界的指揮者・鈴木雅明氏を中心とした国内外の一流講師陣の指導のもと、4日間にわたる集中的なりハーサルに取組んだ。セルパンやオフィクレイドなどの古楽器を取り入れた公演の演奏は、来場者からは高い満足度を得ることができ、若手音楽家にとっては貴重な経験となった。また、寄付金を活用したジュニア招待制度により18歳以下の子どもたちを無料招待し、次世代への鑑賞機会の提供という側面でも意義深い成果を上げた。

本アカデミーでは、演奏技術の向上のみならず、将来を見据えた多様な学びの機会も提供された。受講生が講師に対してキャリア等様々な質問を行っていくディスカッションタイムを設けたほか、成績上位者10名によるユニークベニューでの演奏機会を創出した。また、シンガポールのヨン・シウトウ音楽院との連携により海外からの参加者を受け入れ、日本人の参加者はもとより市民によるホームステイの受け入れを通じて、地域における国際交流の場としても機能した。

もう一つの人材養成事業として実施された地域課題解決に寄与するアーティスト養成プログラムでは、特別支援教育の充実のニーズに伴い、八雲台小学校の特別支援学級と連携したアウトリーチ活動を行った。講師にはアウトリーチ経験の豊富な箕ロー美氏、おとみつくを迎え、若手音楽家7名はおとみつくと共に、子どもたちと音や身体表現を用いた創作的なワークショップに取組んだ。特別支援教育の中での音楽づくりは学校教員から高い評価を受けた。実践後には次年度に向けた企画演習を実施し、参加者にとっては実践的な経験と企画をアウトプットする力の育成につながった。

普及啓発事業では、年齢や属性を問わず市民が文化芸術に触れる機会を創出し、「心が潤う劇場」の実現に資する多様な取り組みを行った。グリーンホールオープンデーでは、社会福祉協議会と連携した周知活動により、高齢者、障害のある方、子育て世代など文化芸術へのアクセスに課題を抱える層の参加が見られた。親子で楽しめるティンパニ体験やUDトークと手話通訳といった鑑賞サポート支援の導入により、参加者からは「また来たい」といった反響が寄せられた。

12月に開催された「クリスマスコンサート」では、ピアニスト角野隼斗とばんだウインドオーケストラによる、クラシックとポップカルチャーを融合させた革新的なプログラムが展開された。観客の高齢化が公演事業の課題であったが、U25世代を対象とした割引制度を活用したチケット販売は158枚に達し、若年層の鑑賞機会創出に大きな成果をもたらした。また、音楽を振動と色で感じられる「SOUND HUG」の導入により、演奏者・来場者が共生社会について考える新たなきっかけが生まれた。

子どもたちの等しい芸術体験を目的とした市内小中学校との連携によるアウトリーチ事業では、小学校での鑑賞型アウトリーチ、中学校の吹奏楽部への指導を展開した。ばんだウインドと共に児童・生徒が主体的に関われるプログラムを作り出し、演奏や鑑賞体験への関心が高まった。都立特別支援学校の知的障害を持つ児童を対象としたインリーチ事業においては、ホール空間を活用し、音楽と身体表現(ダンス)を組み合わせた自由なワークショップを展開した。子どもたちの表現意欲を引き出すことに成功し、学校関係者からも高い評価を得ている。

アクセシビリティの推進においても、やさしい日本語による影アナウンス、筆談支援、視認性の高いブラカードの活用など、情報保障の面での改善が図られた。車椅子対応やバリアフリートイレなどの設備面の整備も進んでおり、誰もが安心して文化を享受できる環境の基盤づくりが着実に進められている。来年度には障害者割引の拡充や、全公演での鑑賞サポートの導入を目指し、さらに支援体制の充実を目指していく。

当該年度の実施事業を通じて、調布市グリーンホールは、公共の劇場・音楽堂として我が国の文化芸術の発展に貢献するとともに、「開かれたホール」としての社会的役割を果たす拠点へと発展し始めることができた。今後は、各事業の成果をより詳細に分析しながら、「互いを認め合える社会」の実現に貢献しうる場としてより一層の展開が期待される。

・ 所見

◇ミッションやビジョンに基づいて事業が展開されており、アウトカムの発現を目指して進んでいることと思われる。

◇調布市は、歴史的にも文化の薫り高い街であるが、調布市グリーンホールは、その意欲的な事業によって、街の文化の中心的な施設としての存在感を示している。

◇「調布国際音楽祭」は、その名のとおり国際性に富んだ内容と高い芸術的水準を誇るものとして、数ある自主事業の中でも代表的な事業となっている。

◇「調布国際音楽祭」の関連事業である人材養成事業も、若手演奏家にとって世界とつながり、世界に踏み出す扉としての役割が期待されている。

◇一方、「次世代」を意識した方向性も明確であり、将来の観客育成を意図している事業も少なくない。ファミリー層の流入という地域の傾向を踏まえた戦略と思われるが、やがてその成果が表れるであろうことが期待される。

◇「開かれたホール」としての社会的役割は大いに期待されるところであるが、そのためには、地域のさまざまな団体や機関とのさらなる強力な連携が必要とされるであろう。また、敷居の低いホールとして、人々が集い、にぎわう場であるよう心がけることも必要と思われる。調布駅前という好立地を生かし、グリーンホールを中心に地域の人々のつながりが線から面に広がっていくように努めていただきたい。

◇バリアフリーへの対応は行き届いており、障害を抱えた方たちにとって「開かれたホール」となっているが、より広範な市民を引き寄せる工夫も必要となってくる。また、さまざまな社会的課題に対応する施設としてのホールの役割も今後ますます重要になると見込まれることから、共生社会の実現に向けた機能や事業の強化にも積極的に取り組んでもらいたい。